



ケアマネジャーのお仕事サポート

テーマ

ドライマウスについて知ろう

ドライマウスとは

ストレスや薬の副作用などで口の中が乾燥する状態。
他の疾患の一症状として現れることもあります。



基本ケア -項目-

3、7、8、11、20、21、22、
24、25、31、32



適切なケアマネジメント手法「基本ケア項目」
口腔内の異常の発見、食事への影響、
必要な水分量、薬剤の影響などなど



ドライマウスかも？

口腔内の乾燥が気になる方

次の項目を確認してみましょう。

- 口の中が乾いてネバつく
- 食パンやビスケットなど乾いたものが食べにくい、飲み込みにくい
- 息が臭う
- 舌がひび割れて痛い
- 歯周病・虫歯が悪化した
- 食べ物を美味しく感じない、味覚がおかしい
- 舌がうまく動かず話しづらい



ドライマウスの主な原因は、さまざまありますが、特に多いのは加齢です。

加齢によって、唾液を作る唾液腺の機能が低下し、唾液の分泌量が減ってしまいます。

特に女性は70～80代で大きく減少するケースもあります。

虫歯やフィットしない入れ歯を使っているせいで食べ物を噛む回数が減っていたり、ストレスを感じていたりするときも唾液の分泌量が減る場合もあります。

オーラルフレイルが進行すると、食べ物をしっかり噛むことも難しくなるため、唾液を分泌する能力が低下してドライマウスになるケースが見られます。

また、**消炎鎮痛剤、降圧剤・利尿剤、抗うつ薬や抗アレルギー薬などの副作用**として、唾液の分泌量の低下がみられることもあります。

免疫細胞が自分の体の細胞を壊してしまう自己免疫疾患の一つ、**シェーグレン症候群**では、唾液腺や涙腺の細胞がダメージを受けるため、唾液や涙の量が減ります。

糖尿病が重症化したときも口の渇きが現れることもあります。

早期にドライマウス（口腔乾燥症）を発見しましょう。 そして口腔ケアにつなげましょう。

ドライマウスの原因

- 1 加齢
- 2 糖尿病
- 3 腎機能障害（人工透析）
- 4 シェーグレン症候群
- 5 薬の副作用



唾液分泌を阻害する薬剤

- 消炎鎮痛剤
- 降圧剤・利尿剤
- 抗うつ剤
- 精神安定剤
- 抗けいれん剤
- 抗アレルギー薬



執筆者

木村隆次 きむらりゅうじ

薬剤師

介護支援専門員

介護支援専門員指導者一期生

医療・介護連携協働をライフワークに活動中。大学卒業後、製薬会社のMRとして勤務した後、青森市内で薬局を開局。薬剤師として居宅訪問をしていた際、福祉用具と住宅改修に興味をもち没頭。介護支援専門員指導者の一期生。2000年4月から13年間日本薬剤師会常務理事、2010年から2022年まで青森県薬剤師会会長を務めた。2005年11月から日本介護支援専門員協会会長（初代）として厚生労働大臣の諮問機関で介護報酬や介護保険制度を議論する分科会・部会の委員を歴任。現在は、青森県介護支援専門員協会会長として自立支援型ケアマネジメントの普及のため後進へ情報発信し育成に努めている。